

の

葛

鐘

野

KADONO - NO - KANE

第 17 号  
2010年4月

京都光華女子大学図書館報

## CONTENTS

館長からのメッセージ

### TOPICS

わたしと図書館

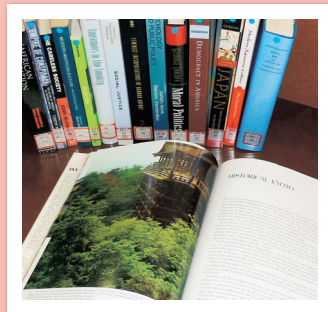
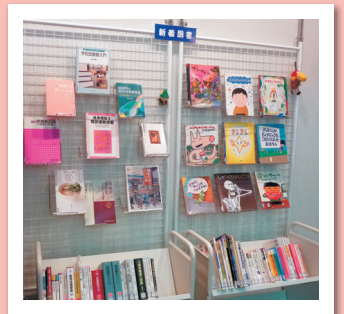
フロアガイド

わたしのすすめる1冊

図書館貸出ランキング

寄贈者一覧

「みんなのおススメ本<sup>o</sup>」報告



KYOTO KOKA WOMEN'S  
UNIVERSITY LIBRARY



図書館長 あさひ な ひでお  
朝比奈 英夫  
人文学部文学科日本語日本文学専攻  
(国文学)



## 「図書館の魅力」

ひとり灯のもとに文をひろげて、見ぬ世の人を友とするぞ、こよなう慰むわざなる。

『徒然草』のよく知られている一節で、書物を通して古典世界の作者と心を通わせることが何よりの慰めになるというのである。この述懐からは、夜更けにひとり灯りの下で書物—この場合は巻物をひろげて、そこに遺された筆づかひの感触を楽しんでいる兼好法師の姿が垣間見えるようだ。

文学であれ他のジャンルであれ、作品を創った人とともに、それを読んで写し後世に伝えた人々が必ずいる。それら幾層にも重なった人々の存在が本の重みを通して伝わってくるからこそ、不思議な生命感が書物にはある。

ところで、実は文字そのものの中にも文字を介した人と人とのつながりがある。たとえば「楽」。「音をたのしむこと」に由来するこの漢字は、『説文解字』(A.D.100)以来の「楽」、現代中国大陸の「乐」(簡体字)、日本で常用される「楽」のように字体の広がりを持つ。パソコンで文章を入力しながら、ソフトウェアが眼前のディスプレイに映し出す「楽」字の広がりを見ていると、時間や地域を越えた文字文化の共有が実感される。

身近なところでは、メールに多用される「♡」のような絵文字もまた、現代に生まれた文字文化といえよう。それは事柄を伝えるだけではなく、そのことを伝えたい人の抱く情感を絵という形に乗せて伝え合うのである。「恋」を「孤悲」と表記する、かつて万葉仮名が時として担っていた文字の表意性を、新たな形で再現したのだと言ってもよい。

われわれを取り囲む書物、そしてパソコン上や携帯メールでの文字づかひに共通するのは、文字の背後に息づく人の“心”の存在である。であれば、図書館は多数の書物と多様な情報(もちろん文字には限らない)の蓄積の中に、無数の“心”を蔵している場所だと言えるだろう。新年度にあたって、多くの人を引きつけてやまない図書館の“心”の魅力を、もっともっと感じ取ってゆきたいと願っている。

## TOPICS

平成21年12月4日、人間関係学科メディア情報専攻2年生対象の基礎演習で、図書館が導入しているオンラインデータベース「日経BP記事検索サービス」の有効活用について、日経BP社の方に講義をしていただきました。データベースの活用方法や出版業界について生の声を聞かせていただくことができました。

また、12月16日の人間関係学科心理学専攻1年生対象の京都文化心理学では、図書館員が京都観光に焦点を絞った情報検索の授業を行いました。この授業は1つのテーマについて複数の講師が担当し、多角的な視点から体験的に学習を進めていくラーニ

ング・コミュニティという形式をとっています。

このような授業に参加したことは“図書館ツアー”の新たな動きでした。今後も教員や学生の学習・研究のための教育支援を推進していきたいと思っています。





## 天理図書館にかよった頃

「かよった」などというのは烏滸がましいが、学生時代は主に演習の調べ物のために、よく天理図書館の御世話になった。私は奈良女子大学の出身で、奈良女では近世文学の「演習」は「特殊講義」といわば組になっていて、私の頃は専任の井口洋先生と天理から非常勤で来られていた木村三四吾先生とが、毎年交互に担当された。その木村先生の演習に、まだ二回生で受講資格はなかったのに、お願いして潜り込ませていただいたのが、天理図書館との御縁の始まりでもあった。

その年の演習では馬琴の書翰を読むということで、木村先生は広げたら数メートルにもなろうかというその現物書翰を、度々図書館から持って来られて、次回進むであろうくらいの部分を受講生の人数(院生を入れて5~6人であったと思うが)分、助手さんにコピーさせて配ってくださるのである。そのときは字を読むことだけで精一杯で、調べるといところまで行かなかったが、その後大学院までの学生時代を通して、木

ひるかわ よしこ  
肥留川 嘉子  
人文学部文学科日本語日本文学専攻  
(近世国文学)



村先生の芭蕉七部集や、井口先生の西鶴の浮世草子作品の演習のために、天理図書館にかようことになった。

天理は、手続きさえとれば、原則として誰にでも貴重書を閲覧させてくれた。その御蔭で、私のようなひよっこ学生でも現物資料に触れることができたのであるが、貴重書の閲覧テーブルは奥の閲覧室のカウンターの目の前にあり、そこから司書の方がそれとなく見張っていて、私らが変なことをしそうになると、すかさず出て来られ、「片付けは館員がいたしますので…」と言って取り上げてしまい、本に被害が及ぶことを防いでおられた。私らはその度に顔から火の出るような思いをしたけれども、そうしてそのような文書の扱い方を多少とも覚えていったのもあった。

今私が、曲がりなりにも本学図書館の「冷泉家文庫(仮称)」の書誌調査などをさせていただけるのも、その頃天理でそのような懐かしくも有難い教えを受けられたからこそである。



## わたしと図書館

### Web2.0 時代の図書選び

「Web2.0」というのは少し古いバズワードになってしまった感もありますが、我々の日常生活とネットの関わりが大きく変化していることは確かです。印刷された本というのはアナログの代表の様なものですが、実はこれもネットの影響を大きく受けていると感じさせられます。特に選書(図書選び)のやり方が大きく変わりました。以前は、自分で大型書店の書棚の間を歩き回ったり、新聞・雑誌の書評、日本書籍出版協会が発行する「これから出る本」などに頼ったりしていました。最近なら、少し気になる本があれば、Amazonや紀伊國屋書店Book Webなどで検索をおこなえば、目次などの概要や著者情報、在庫状況まで瞬時に分かります。

特に、Amazonでは「お客様へのおすすめ」、「よく一緒に購入されている商品」、「この商品を買った人はこんな商品も買っています」といった、大量に蓄積されている過去の検索履歴や購買履歴などのデータを基にした、いわゆる「リコメンド」の充実が非常に進んでいます。また「カスタマーレビュー」という他の読者の感想も大変参考になります。「レビュー」の機能は、書店サイトだけではなくSNS等にも用意されています。本学のKocolonyにも多くの「レビュー」が投稿されていますので、是非活用してみてください。デジタル化が進むと本は無くなってしまおうなどとも言われていましたが、かえてアナログの良さが見直されているのかなとも思います。



あべ いっせい  
阿部 一晴  
キャリア形成学部 キャリア形成学科  
(政策経営情報科学)



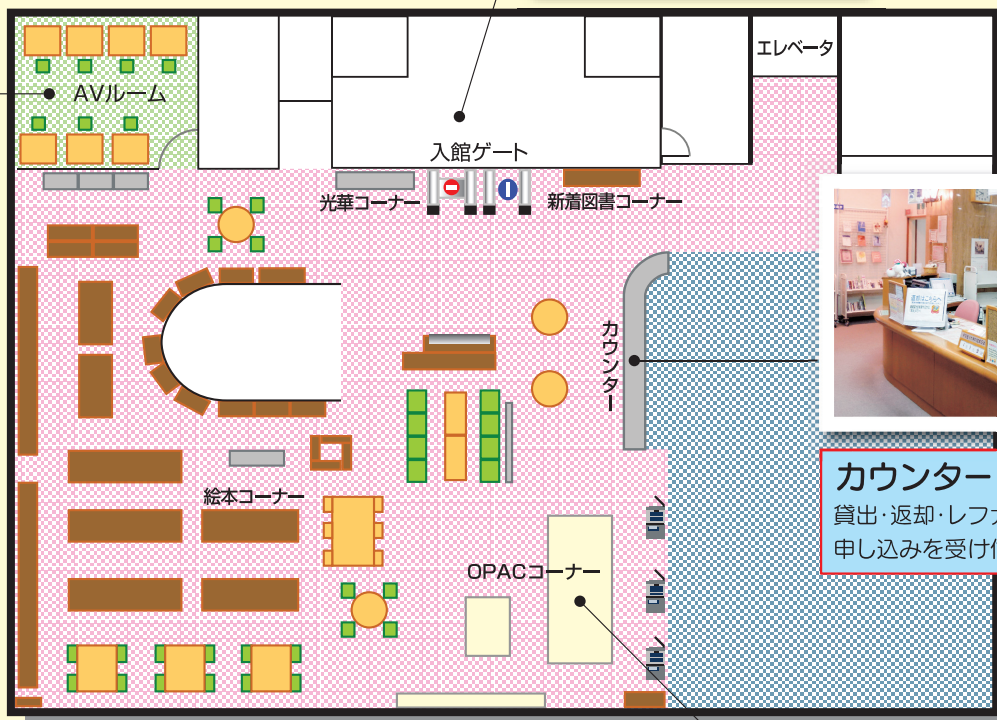
# フロアガイド FLOOR GUIDE

## 1F 【総記・雑誌・新聞など】



### 入館ゲート

利用証(学生証・教職員証など)をタッチするとゲートが開きます



### カウンター

貸出・返却・レファレンスのほか、各種申し込みを受け付けています



### AVルーム

図書館に所蔵している映画DVDなどをみることができます



### オパック OPACコーナー ※

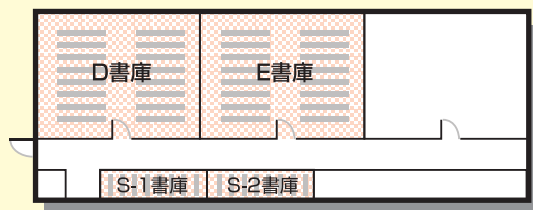
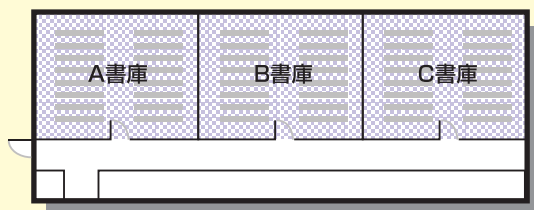
蔵書検索・データベース検索が自由に利用できます

## 地下1F・2F 【書庫】



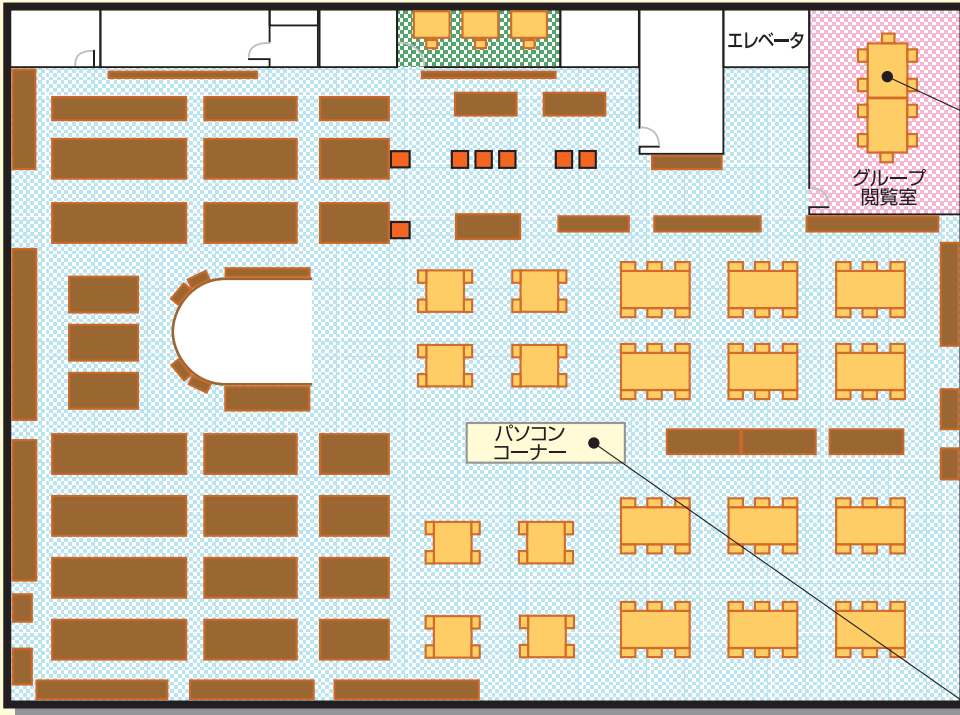
### 書庫

A~C 書庫：和図書  
D 書庫：洋図書・洋雑誌  
E 書庫：和雑誌  
S 書庫：和図書  
を配架しています



※ OPAC(オパック)とは・・・  
Online Public Access Catalog  
の略です。

# 3F 【芸術・語学・文学・洋図書】

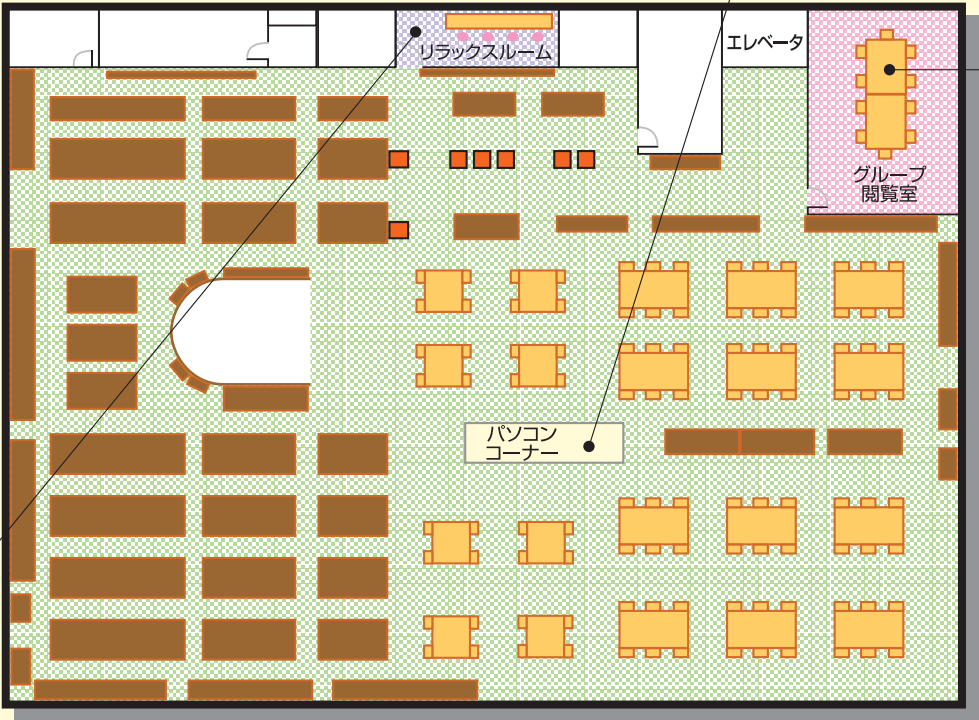


**グループ閲覧室**  
2～10人のグループで図書館資料を使って学習・研究することを目的とした小閲覧室です

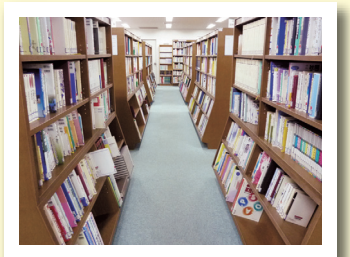
**パソコンコーナー**  
本やインターネットを使ってレポート作成などに利用できます



# 2F 【自然科学・社会科学・生活学など】



**リラックスルーム**  
勉強の合間にちょっと休憩したいときはこちらへどうぞ  
(水筒やペットボトルなど、フタ付きの飲み物はOK)





ちねん ようこ  
知念 葉子

短期大学部 ライフデザイン学科 (感性工学)

## 「ヴォーグ・ファッション100年史」

ファッションは、文化や経済、価値観と密接に連動し、人々を魅了する流行の装いやライフスタイルを提案することで、その時代の指針となる。

『Vogue』は、1897年創刊のファッション誌で、20世紀を通し、女性のエレガンスを写し出してきた。本書は、『Vogue』創刊当初から、今日までの100年間のファッションの流れやデザインの変遷を、有名写真家たちの美しい秘蔵フォトとともに紹介している。

女性美に対する価値観は、近代化とともに1900年代を境にして変貌する。コルセットで身動きできない程身体を締め、理想のシルエットを造形していた時代から、自立して活動的に働く女性のためのファッションへと移行していくのである。この働く女性の新しいエレガンスを溢れる才能で提案したのがGabrielle

Chanel である。シャネルスーツは、すたれるどころか、その機能性とデザイン力で、2009年秋冬の流行アイテムにおいても、燦然と輝き存在している。

各年代を辿りながら本書を読み進めると、20世紀を駆け巡ったデザイナー達の出世作や、個性と革新性で時代を切り開いた彼らの渾身の思いに触れることができる。既成概念を打ち壊す斬新なシルエットやディテールは、天才的な造形力と感性で生み出されてきた。その中でもCristóbal Balenciaga, Christian Dior, Hubert de Givenchyの3人の巨匠が創り出したエレガンスは、最高水準のモダン&エレガンスであると評されている。世知辛い昨今だからこそ、ラグジュアリーなファッションの品格とエレガンスの真髄を感じられる本書をお薦めしたい。

リンダ・ワトソン著 桜井真砂美翻訳 ブルース・インターアクションズ 2009年刊  
図書館 2F 589.2/WaLi

# BOOK

わたしのすすめる1冊



たけうち ひろみ  
竹内 弘美

キャリア形成学部 キャリア形成学科 (社会福祉学)

## 「僕の妻はエイリアン—『高機能自閉症』との不思議な結婚生活—」

何か新しいことを始めようとするとき、まず初めに手に取る本は「入門書」、「基礎編」などと銘打ったものではないでしょうか。もちろん、その理由は初心者にわかりやすく、噛み砕いて書かれているからです。

本書はそういった類のものではありませんが、自閉症や障がいについて興味をもったときに読んでもらいたいと思う本です。本の中の「妻」は高機能自閉症であり、「エイリアン(異星人)」と紹介されています。そして、妻が高機能自閉症であるがゆえの夫の苦悩や葛藤、また妻を理解して一緒に生きていこうとする姿を、夫婦の日常生活の中で起こるさまざまなエピソードを交えて描かれています。

この本を読んでみてほしいと思う理由は、高機能自

閉症ゆえの行動や症状をエピソードにのせて非常にうまく描写されているため、障がいについての知識が全くない人であっても「高機能自閉症」が非常にイメージしやすくなっているからです。

最近、障がいを抱えている人自身やその家族が日常生活の中の葛藤や思いを綴った本が書店に並ぶようになりました。それらはどれも率直で明瞭。それゆえ著者の思いがストレートに伝わってくるものが多いのではないかと思います。

最後にもう一度紹介した本に戻りますが、もしも本書を読まれることがありましたら、必ず「あとがき」まで読んでください。私は「やられた！」と思いました。

泉 流星著 新潮社 2008年刊  
図書館 2F 文庫コーナー 文庫



図書館

BOOK & DVD  
貸出ランキング

2009

みんなは何を読んでる？ 何を見てる？

BOOK



No.1

告白 / 湊かなえ 著

双葉社 2008年刊

図書館3F 913.6/MiKa

DVD



DVDの2位以下は同数、同順位でした

1	魔法にかけて
2	幸せになるための27のドレス
2	マンマ・ミーア!
2	デトロイト・メタル・シティ ザ・ムービー
3	ヘアスプレー
3	パコと魔法の絵本
3	ハイスクールミュージカル

2	トワイライト[1]上 / ステファニー・メイヤー著	1F 文庫コーナー 文庫
3	こげぱん三都ぶらり旅日記 / たかはし みき著	2F 京都コーナー 291.62 S/TaMi
4	こげぱん大阪・神戸ぶらり旅日記 / たかはし みき著	1F 文庫コーナー ガイドブック
5	犯罪心理学 / 細江 達郎著	2F 閲覧室 326.34/HoTa
6	恋ごころの科学 / 松井 豊著	2F 閲覧室 141.6/MaYu
7	阪急電車 / 有川 浩著	3F 閲覧室 913.6/AHi
8	砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない / 桜庭 一樹著	3F 閲覧室 913.6/SaKa
9	やさしいエントリーシート(2010年度版) / 中村 一樹著	1F ステップコーナー 336.42 S/NaI/2010
10	GOTH 僕の章 / 乙 - 著	2F 文庫コーナー 文庫

寄贈図書リスト

(平成21年1月～12月受入 寄贈者の五十音順・敬称略)

現旧教職員

- 飯沼 万里子 英語・英米文学の光と陰 ほか
- 石田 真理 山陰道に沿って ほか
- 一郷 正道 ナルタン版大蔵経テンギユルDVD ほか
- 糸井 通浩 日本語表現学を学ぶ人のために
- 太田 清史 司法福祉と仏教 ほか
- 小笠原 慶彰 大阪における社会福祉の歴史 1
- 梶浦 志保子 ジェンダー主流化と雇用戦略 ほか
- 加藤 実 艶●源氏 ほか
- 可藤 豊文 パキスタン・ガンダーラ美術展 ほか
- 河原 俊昭 国際結婚
- 木辺 円慈 図書館の話 ほか
- 金 明秀 在日韓国・朝鮮人 ほか
- 清水 康次 関西文壇の形成 ほか
- 高木 英明 必携学校小六法 2010年度版

- 田中 久美子 柏木体温計と地域社会
- 辻本 雅史 ふるさとの人と知恵神奈川 ほか
- 徳田 仁子 病体と居場所感 ほか
- 松田 智子 禅の世界 ほか
- 三村 晃功 近世類題集の研究 ほか
- 宮田 正彦 知っておきたいガンの知識 ほか
- 和栗 了 若きマーク・トウェイン“生の声”から再考
- 渡辺 正嗣 甦る平安京 ほか

在校生

- 王治 愛美 カラーイラスト 硬式テニス
- 外村 香織 心理パラドクス ほか

この他にも学外の方から多数の図書を御寄贈いただきました。  
改めて御礼申し上げます。

みんなの  
おススメ本。

図書館では2009年10月19日(月)～12月31日(木)に「みんなのおススメ本<sup>ボン</sup>」を開催しました。読者コメントを書いてポイントをため、プレゼントをゲットするという企画。投稿されたコメントは Kocolony にアップされています。その中から、図書館スタッフが選ぶ最優秀コメント賞、優秀コメント賞を紹介します。たくさんのコメント投稿、ありがとうございました!!



### 【最優秀賞】「子どもの本は世界の架け橋」 ベンネーム ひまわり イェラ・レップマン著 こくま社刊

「子どもの本」と聞いて、どんなイメージを抱くだろうか。大きな文字で描かれた本、面白い絵が描かれた絵本、いろいろ頭に浮かぶだろう。私たち大人にとっては、何か軽く考えがちである。しかし、本の素晴らしさ、本の持つ力の偉大さを伝えていくことが、今求められていると思われる。本はさまざまな世界の言葉に翻訳されて、世界中へ飛び立っていきることができる。一冊の本との出会いが、多くの出会いを生むこともあるかもしれない。子どもの教育の中で、

特に「読書」が薦められているように、子どもにとっての影響力も大きい。さらに、子どもの本には大人向けの本にはない、特別なものが含まれているように感じる。さまざまな感情や感覚、勇気や好奇心、願望、信頼などを生み出す、根本的な生命の力を「子どもの本」はもっている。本書からは、「子どもの本の魔法」を感じることができる。子どもたちの精神の糧となる本を大人が伝え、手渡していくことで世界につながり、平和への一歩となるのではないだろうか。

**スタッフ選評** スタッフ間で最多数の票を獲得したコメントです。子どもの頃に読んだわくわくした物語が、知らず知らずの間に大切なことを教えてくれるものということ、またそれを感じた私たちが次の子どもたちへ伝えていくことの重要性が、このコメントから伝わりました。

### 【優秀賞】「私のように黒い夜」 匿名希望

J.H.グリフィン著 ブルース・インターアクションズ刊

黒人差別がまかり通っていた1959年のアメリカ。黒人に対して嫌悪感満載の白人ばかりと思いきや、中にはそうでない「まとも」な白人もいるのです。これは、白人ジャーナリストの実録です。白人は黒人を蔑み、黒人は白人に怒りを募らせる渦中で、白人である著者は、皮膚を黒く塗り黒人街へと潜入します。しかも、当時で最も人種差別が激しいと言われる地区。白人だとバレれば、明らかに殺されます。ところが、命をかけた潜入は、彼を虜にしました。白人の面立ちと黒人の面立ちって、違うのでは？すぐにバレるのでは？って、ハラハラと読み進みますが、周りの黒人からは案外気付かないものなんですね。もちろん、白人たちも。自分は白人で、しかも黒人に扮する。すると、見えてくるんですね。今まで見えていなかったものが……。白人から受ける差別や黒人の立場等、差別を受ける側の見方が写実的に表現されています。興味を持たれた方、逆の立場に立ってみませんか？

**スタッフ選評** 敬遠してしまいそうな重いドキュメンタリー作品を、興味をそそるエピソードと軽妙な文章で紹介してくれました。コメントを読んだ人に、一つの現実を知るきっかけが生まれてくれたなら素晴らしいことです。

### 【優秀賞】「96歳の大学生」 匿名希望

歌川豊國著 PHP出版刊

この本の中で特に印象的だった言葉が「限りある身の力ためさん」です。この人だからこそ重みのある言葉になるのだと思います。死ぬまで無駄な時間をダラダラ過ごすのではなく、命がある限り自分がどれだけの力を秘めているのか試し、挑戦し続ける歌川さんの姿勢に心を打たれました。私も、本当に今のままでいいのか？何か、今じゃなければできないことがあるのではないのか？という思いに駆られました。歌川さんは高校から受け、初めは周りの生徒から好奇の目で見られていたそうです。しかし自分の夢のために屈することなく通い続けました。大学では半世紀以上も年の離れた友人がたくさんでき、キャンパスライフを楽しむ歌川さんの写真もありました。この本から学べることが沢山ありました。

**スタッフ選評** 「ただ漫然と暮らすのではなく、一段上の目標に向けて、志をもって生きる。」こんな素晴らしい生き方に対して共感を持ったあなたに拍手を送ります。

## 編集後記

図書館報「葛野の鐘」を、今号から全面リニューアルしました。みなさまの身近に届くようにとの思いは変わらず引きつぎ、より充実した内容でお届けしたいと願っております。また、ご寄稿くださいました皆様には心より御礼申し上げます。

## 葛野の鐘 第17号

2010年4月発行

京都光華女子大学図書館

京都市右京区西京極葛野町38

TEL (075) 325-5399

E-mail: lib@mail.koka.ac.jp

http://www.koka.ac.jp/toshokan/

